

	方剂名	効能	生薬組成
	書籍	主治および証	病機 方意
<p>治風剂 疏散外風剂 3</p>			
	<p>けんせいさん 牽正散</p> <p>楊氏家蔵方</p>	<p>祛風通絡・化痰止瘧</p> <p><主治> 風邪外中経絡 顔面神経麻痺。</p> <p><病機> 情志失調による肝の疏泄不暢、あるいは飲食不節、脾虚などによる痰濁内生のために、脈絡での衛気の周流が悪くなって経絡が空疎になっているときに、風邪が虚に乗じて侵入し、元来の痰濁や風邪で変化した痰と結び付き、風痰が脈絡を瘀阻して経隧不利、筋脈失養を引き起こしたために、顔面神経麻痺が生じる。患側は筋脈が弛緩し、健側は相対的に緊急するので、口眼喎斜（ゆがみ）が生じる。</p> <p><方意> 外中した風邪と有形の痰濁が結び付いているので、単なる発散風邪の薬物では無効であり、虫類薬で搜風削除する必要がある。 白附子は辛散で祛風化痰に働いて頭面の風を除き、白僵蚕も祛風化痰し絡中の風を逐い、全蝎は祛風止瘧、通絡に働く。3葉を合わせることで、祛風化痰、通絡止瘧の効能が得られる。</p> <p><参考> 白附子は温燥であるから、風痰の寒に偏するときに適する。白附子・全蝎は有毒であり少量に留める必要がある。 脈絡の瘀阻不通では、必ず伏熱鬱陽を伴うので葛根・連翹・金銀花・薄荷などで清泄疏解する必要がある。</p>	<p>白附子・白僵蚕・全蝎各等分 細末にし、1回3gずつを湯か温酒で服用する。 水煎し服用してもよい。</p>